

横浜市各区広報の「東日本大地震」の取り扱いについて		
NO.	区名	記事
0	横浜市版 (全区共通)	<p style="text-align: center;">◆横浜市長 林 文子「市民生活や市内経済の安定・安心に向けて」</p> <p style="text-align: center;">＜横浜市「くらし・経済」震災対策本部を設置＞</p> <p style="text-align: center;"> ●2つのプロジェクトチームを編成 </p> <p>●節電に心掛けましょう 夏になると電力供給量が大幅に不足する見通しでその際は市民の皆様のご協力が不可欠です。エアコン:使用する前にフィルター掃除、使用しないコンセントは抜いておく、冷蔵庫に物を詰め込みすぎない。等日頃からご協力をお願いします。</p> <p>●飲料水を備蓄しましょう。 ・普段から災害に備えて水の備蓄やくみ置きをお願いします。突然の断水などにも有効です。 ・水道水を清潔でふたが出来る容器に入れて保存しましょう。 ・目安としては1人1日3リットルを3日分です ・冷蔵庫など暗くて涼しい場所で、夏場は3日間、冬場は1週間程度保存できます。</p>
1	青葉区 5月号 一面	<p style="text-align: center;">特集 1 確認しておこう!! 災害時の行動</p> <p> ・自宅に倒壊の危険があるなど、生活するのに困難な状態になったら ↓ 地域防災拠点 <small>(小中学校を避難場所指定)</small> </p> <p> ・震災により怪我をしたら ↓ 地域医療救護拠点 <small>(三日間程度被災負傷者等への救急医療を行います。)</small> ※: 地域防災拠点と併設 </p> <p> ・地域防災拠点の周辺で火災が起きていたら ↓ 広域避難場所 <small>一定の広さがある空き地などで数時間程度熱や煙から身を守る為の場所です。</small> </p> <p>地震にあったら ・ガラスや落下物から身を守り、出口を確保しましょう。 ・避難の前に火元・電気の確認をしましょう。 ・ご近所同士協力して避難しましょう。 ・自宅に倒壊の危険が無く周辺で火災が発生する恐れがないときは避難の必要はありません。避難の必要があるかどうか迷う場合は近所の公園など、自治会、町内会や地域で決めた場所「一時避難場所」へ移動して様子を見ましょう</p> <p>＜節電にご協力願います。＞ 区民の皆様にはご不便をお掛けしますが、停電時の準備や節電へのご理解ご協力を御願います。 東京電力神奈川カスタマーセンター</p> <p>＜被災者とその家族への相談窓口＞ 青葉区では、被災者に対する窓口を設け、生活相談や受け入れ住宅等のご案内などの相談を行っています</p> <p>＜面談相談窓口＞ 区役所3階64番窓口運営企画係 TEL 978-2433 FAX 978-2419</p>

横浜市各区広報の「東日本大地震」の取り扱いについて

NO.	区名	トップ記事	記事
2	旭区 5月号 一面	<p>今こそ、地震に備える。〈旭区長 濱洋太郎 就任挨拶〉 [日頃から地震に備えておこう] 地震の時に必ずしも家族と一緒にいるとは限りません。いざという云うときにどのように行動するか必要な備えは何か事前に決めておきましょう。</p> <p>●家族の話し合い(備えの例) ・非常持ち出し袋など、持ち出すものを決めておく ・家具の転倒防止対策をしておく ・落ち合う場所を決めておく ・災害用伝言ダイヤル171の使い方を確認する ・帰宅グッズを備える(懐中電灯・携帯食料・飲料水・携帯ラジオなど) ・学校や勤務先から徒歩での帰宅経路や、途中の「災害時帰宅支援ステーション」を確認しておく</p> <p>●旭区 区民生活・防災マップ(いざというときに備え是非ご活用下さい) 「主な掲載内容」 ・避難場所と地域防災拠点 ・地震の備え ・住まいの耐震診断 ・災害用伝言ダイヤル「171」の使い方など 「配布場所」 ・旭区役所町の安全・安心担当(区役所2階24番) ・旭区役所広報相談係(区役所1階①番) ・区内各地区センター、二俣川駅行政サービスコーナー</p>	<p>[正しい情報を基に判断しよう] 被災時は災害の情報が入りにくくなります。ラジオなどで情報収集し、デマに惑わされないようにしましょう。旭区役所では「あさひ安全安心かわら版」を配信しています。</p> <p>●あさひ安全・安心かわら版登録方法 登録は簡単です。是非登録を～計画停電の情報も発信しました。～(Email・Faxの場合)</p> <p>地震発生！地震が起きたら落ちついて行動しよう ・自身の安全を確保 (机の下、クッションなどで頭を守る等、身の安全を！) ・火災を発見したら (消火器水バケツなどで可能な範囲で初期消火) ・自分は無事だけど・・・(家族・隣近所の安否を確認。普段から隣近所と顔の見える関係を築いておきましょう。) ・町内の車椅子の〇〇さんは大丈夫かしら？ (余震に注意して地域で協力災害時要援護者の安否確認、必要に応じて救助活動を！) ・家が崩れてしまって住めなくなってしまう・・・自宅が倒壊火災の恐れがある場合、電気のブレーカー、ガスの元栓を確認して、一時避難所・地域防災拠点に(震災時避難場所)に避難します。 ※：自宅建物が倒壊や火災の危険が無い場合はあえて避難の必要はありません。</p> <p>※被災された方々が市営ひかりが丘住宅などに上白根町の市営ひかりが丘住宅で入居始まる(支援助物資受け入れ窓口等) ※：募金、災害救援物資の提供受付、記事等 省略、</p>
3	泉区 5月号 一面	<p>特集 1 いざというときに備えて 「いまあなたにできることは・・・ 平成23年3月11日14時21分横浜市内で震度5弱の地震が観測されました。 あなたは何処にいましたか？何が必要でしたか？ いざという時に備えて「いま」出来る事をかんがえて下さい。 そして自分と家族を守るために十分な備えをしましょう。</p> <p>〈区民の皆様へー区長(泉区災害対策本部長)挨拶〉 〈地域の力がたよりく〉大地震など災害の発生直後は本格的な救援活動が始まるまで自助(自分の身は自分で守る)と共助(地域による支えあい)の力が最も重要になります。 ～災害時要援護者支援ハンドブックができました～</p> <p>・災害時要援護者の支援 泉区では災害時に避難が困難な人(災害時要援護者)に対して自治会・町内会を中心とした地域支援者が安否確認や避難場所(地域防災拠点)への避難・誘導が行えるよう「災害時要援護者支援ハンドブック」を作成し区内すべての自治会町内会に配布しました。 ・どのような内容なの？ 災害時に地域支援者が要支援者にどのような手助けをすべきかその被災状況に合わせた具体的な支援方法が記されています。又要援護者とその家族のために災害時の行動と準備について大切なポイントがまとめられています。</p>	<p>「災害時要援護者とは」 ・災害が発生したとき、自分1人の力で避難することが難しく、避難後の生活に何らかの支障が生じやすい人のことです。 ・具体的には、 ①65才以上で一人暮らしの人 ②寝たきりで自力歩行が困難な人 ③障害があるなどの理由で支援を必要とする人 です。</p> <p>「災害時要援護者とは」災害時要援護者に必要な支援とは」 ○災害時の安否確認に関すること ○災害時に正確な情報を伝えること ○避難先を知らせること ○避難場所(地域防災拠点)への誘導に関すること ○生活・医療情報を伝達すること</p> <p>※：災害時要援護者－支援ハンドブックを活用した訓練を実施 報告 ・3/13日に地域防災拠点の1つである川田南小学校では、自治会・町内会と連携した要援護者対策訓練を実施しました。 ・訓練では、地震発生を想定し各自治会・町内会での要援護者の自宅から地域防災拠点までの避難誘導を疑似体験しました。-以下省略-</p>

NO.	区名	トップ記事	記事
4	磯子区 5月号 一面	<p>特集1 東日本大震災地への支援のためにいま、私たちにできること</p> <p>〈区長挨拶 今わたしたちに出来ることは〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ○過度な自粛をせず、普段通りの生活を明るく元気におくること ○停電を回避するため、これまで以上に節電を心掛けること ○水や食料などを必要以上に買わないこと ○改めて身の回りの防災対策を確認しておくこと。 <p>・いま一度、震災への備えを</p> <ul style="list-style-type: none"> ●家族で確認しておこう 災害時の安否確認は171(携帯・PHSからも) ●家具を固定しよう ●一人三日分の備蓄をしましょう 水／一人／日3リットル、食料(レトルト食品や缶詰など簡単に食べられる物)、ラジオ、懐中電灯、電池(消火やトイレ用水は風呂の残り水を) ●こんな物も忘れずに トイレパック 一人一日5個程度、燃料(沸かしたり暖めたり煮沸消毒など) 紙おむつ、生理用品も。 <p>※：震災を現地で体験して(区政推進課村上陽子) 塩竈市役所から人事交流で磯子市役所に来ていますが、報告の為帰省中の被災経験談(生死を分ける避難・地域の助け合い)を紹介。</p>	<p>防災コラム I 避難方法と避難場所を確認しよう</p> <p>●震災後問い合わせの多かった災害時の避難についてもう1度確認しておきましょう。</p> <p>地震発生 自宅職場など → 落下物や倒れそうな家具などに注意してその場にあった安全対策を!</p> <p>自宅や職場の建物に待機できない時 ↑ 火災や倒壊の危険が無ければ自宅へ ↓</p> <p>近くの空き地や公園</p> <p>大火災が発生したら ↓ 家屋倒壊があったら ↓ 負傷者 ↓</p> <p>↓ 地域防災拠点 → 地域医療救護拠点 ↓ 負傷者 ※:区内各中学校に設置</p> <p>大火災が発生したら ↓ 火災が収まったら ↓</p> <p>広域避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> □根岸住宅地区 □岡村公園 □坪呑公園 □磯子カントリークラブ一帯 □汐見台団地及び久良岐公園一帯 □洋光台北団地 □洋光台中央・南団地 <p>※:地域防災拠点リスト22ヶ所-省略</p>
5	神奈川区 5月号 一面	<p>1頁 東日本大震災地への支援のために</p> <p>～私たちがができることから始めよう～ みんなの気持ちを一つに！頑張ろうニッポン (株)横浜フリエスポーツクラブ取締役会長奥寺康彦挨拶 ～よこはまFCとニッパツ三ツ沢球場からエールを～</p> <p>2頁 「東日本大震災被災地への支援のため」～活動から得たもの～ 〈被災地で支援活動を行った区役所や消防署などの職員から区民の皆様へ〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被災地のために出来る事を(救助活動参加消防署員コメント) ・原発への放水ミッションを受けて(原放水活動参加消防署員コメント) ・神奈川区東日本大震災義援金5/18まで受け付けます。募金状況。 <p>3頁 (支援派遣職員の話)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の一步を踏み出して(市職員支援物資の荷さばき) ・日常生活に戻れるように支援を(市職員瓦礫整理) ・リーダー中心に運営される避難所(市職員避難所支援) ・笑顔から力をもらって(市職員横浜市から運んだトイレ100基設置) ・長引く避難生活の難しさ(市職員避難者が1度家に、その後ボランティアとして) 	<p>2頁 <わたしたちができる事から始めよう></p> <ul style="list-style-type: none"> ・節電 電気の省エネポイント①エアコン(冬季20度、夏季28度必要なときだけ)②照明 ③冷蔵庫 ④TV ⑤コンセント ・エコドライブ(エコドライブのポイント) ①ふんわりアクセルに加速・減速の少ない運転 ③早めのアクセルオフ ・エコクッキング(エコクッキングのポイント) ①鍋底からはみ出さない火加減 ②鍋はフタをして加熱 ③同じ鍋を洗わず使う④洗ひ物は小さな古布出拭いてから ・リース食器(皿、箸、お椀、どんぶり)問い合わせは区政推進課へ <p>3頁 ～「エコ活。」で、省エネルギーな暮らしを</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境家計簿(電気、水道、ガス等の使用料を記録する家計簿) ※:神奈川区で21年度に自治会、町内会を通じて680世帯で環境家計簿依頼実施中 ※:環境家計簿ダウンロード地球温暖化対策課のHPで出来ます。

横浜市各区広報の「東日本大地震」の取り扱いについて			
NO.	区名	トップ記事	記事
6	金沢区	<p><区民の皆様へ(橋本康正区長挨拶)></p> <p><避難方法の確認></p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況に応じて避難の仕方は異なります。身の安全を守るために何処に避難すべきか落ちついて判断しましょう。 ・また家族で緊急時の避難場所を話し合っておきましょう。 <p>●まずは身の安全を守りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机の下等に潜り、倒れてくる家具や割れる恐れのある窓ガラスに注意しましょう。 	<p>●地震発生！</p> <p>A・一時避難場所 周囲の様子を見たり、次の避難場所（地域防災拠点、広域避難場所など）に移動する場合に地域住民が集結・待機する場所です。</p> <p>B・地域防災拠点 震災によって自宅で生活できない人が一定期間避難生活を送る場所です。金沢区内には26ヶ所の指定されています。 '一名前省略'</p> <p>C・広域避難所 地震に伴う大火災が発生し、延焼した場合、その熱や煙から生命身体を守るために一時的に避難する場所です。(13ヶ所)</p> <p>D・地域医療救護拠点 震災時、初期対応として必要な期間(原則として3日間)、被災負傷者などの応急手当を行う救護所として、金沢区では10ヶ所の小中学校が指定されています。</p>
7	港南区	<p>特集1 発災！その時あなたは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区役所は、帰宅困難者の受け入れ対応 港南中学、港南スポーツセンター、ウイング横浜で約750人受け入れた。 ・その後計画停電が始まってからは、公共施設だけでなく大型スーパーにも協力を依頼し、区内約80ヶ所に停電情報を掲出するなど最新情報を皆さんに即座に伝えるよう努めています。 ・これまでにない大きな地震を経験した今、発災時に”何が大切なのか””どうしたらいいか”自身を振り返りながら、一緒に考えてみましょう。 ・芹が谷地区民生委員児童委員協議会長松村さん 緊急時には”無事の知らせを自ら発信することも重要”と言うことに気づきました。今回の経験を生かさなくてはと思っています。 ・下永谷町内会長 武田さん 初災時に素早く対応出来るのは、我々住民自身。行政や警察に頼るだけでなく、自分達で出来る事をみんなで話し合っていきたい。 ・西洗助け合い協議会 真紀さん・副代表利根川さん 安否確認ひとつにしても災害が起きたからといって急にできるものでは有りません。普段から信頼関係を築いておくことが大切。 <p>2頁目 特集1 発災！その時あなたは…</p> <p><無事？～安否確認></p> <p>地震直後、電話が通じない中、自治会役員や民生委員の皆さんによる安否確認が行われていました。</p> <p>※：次月号でも防災について特集します。</p>	<p>・西洗助け合い協議会 真紀さん・副代表利根川さん・真木さん わたしたちは災害時に要援護者を支援できるよう日頃から声かけや訪問活動を行っています。メンバーが受け持つ世帯を少なくすることでコミュニケーションが密に取れるため、信頼関係が築けています。地震直後、一軒一軒ドアをたたいて安否確認に回りました。私の声が聞こえるとすぐに「大丈夫」と返事をくれたり、私の姿を見かけて出てきてくれたり…。お互いに声を掛け合える関係づくりが大切だと、実感しました。</p> <p>・芹が谷地区民生委員児童委員協議会長松村さん 今回の地震では本当に考えさせられました。自分自身も不安でたまらず何をしたらいいのか分からなかったから…。停電で真っ暗闇の中、懐中電灯をつけながら地域を見廻りました。連合自治会の定例役員会では、高齢の方から「訪問を待っているだけでなく無事なときは目印を出したらいいですね」という声があったそうです。そういうことも含めて今回の経験を生かすことが大事だと思います。</p> <p>・交通機関の停止・停電～子どもや要介護者への支援 地震が起きたことにより停電になり交通機関も停止しました。何時間も歩いて帰宅した人、帰宅できず泊まった人…。保護者が迎えにこれず保育園や小学校で泊まった子供達。明かりのない中一人で自宅にいた子ども、介護が必要な人も。</p> <p>・下永谷町内会長 武田さん 地震が起きたのは防犯パトロールの最中。直後に停電、環状2号の信号が消えた。警察官がきたのは一時間後。その間交通量の多い交差点で車を止め、歩行者を誘導していました。初災時に素早く行動出来るのはやはり地域住民です。今回のことで防災意識が高まった。今後町内会でも色々話し合っていきたいと思っています。</p>
	5月号 一面		
	5月号 一面		
	2頁目		

横浜市各区広報の「東日本大地震」の取り扱いについて		
NO.	区名	記事
8	港北区	<p>緊急震災特集 震災に向けて備えよう ～東日本大震災から学ぶ～ 区長コメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・備え① 一人3日分の備蓄を 水・食料・トイレパック・懐中電灯・ラジオ・電池など必要最低限の備蓄を確認しましょう。 買い占めするのではなく、計画的に購入しましょう ・備え② 家族で話し合おう 震災直後は、携帯がつながりにくく家族と連絡が取れない方も多かったのではないのでしょうか。震災発生時のお互いの安否確認方法や集合場所など家族で話し合っておきましょう。 ・備え③ 避難場所を確認、防災訓練にも参加しよう 避難場所は、自治会長内会の役員を中心に地域のみんで開設・運営します。いざという時にみんなで助け合い、速やかに行動出来るよう防災訓練に参加しましょう。 がんばろう！東北。区役所正面入り口に義援金の募金箱を設置しています。 被災地への支援を御願ひします。 <p>＜その時港北では 3.11 東日本大震災＞ 各地で甚大な被害をもたらした大震災。 港北区内の被害総数は、横浜市内で最も多い95件でした。－地図で表示－ 港北区で気になるデータ： 人口世帯数：330,286／世帯数：155,254、犯罪件数：391（H23. 1～2） 火災件数：26（H23. 1～3）、家庭ごみ排出量記載：48,500t（H22.4～H23. 3）</p>
5月号 一面		<p>5月号8面つづき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区内の被害状況 建物被害・塀の倒壊・道路の被害その他の被害（電柱、ガス漏洩など） ・新横浜駅の帰宅困難者対策 新横浜駅構内と駅周辺に約3300人の帰宅困難者が発生しました。港北区では受け入れ先を「横浜アリーナ」「港北区スポーツセンター」「港北公会堂」の3ヶ所に設置しました。帰宅困難者は駅に近い小学校にも駆けつけました。 ・避難所(小学校)を開設 <ul style="list-style-type: none"> ●帰宅困難者が駆けつけた。 ●両親が帰宅困難者になった児童を学校で預かった ●家にいるのが不安な住民が学校に避難した <p>さまざまな理由で自宅にいられない方々を受け入れるため、各地域の運営委員長が避難所の開設に当たりました。迅速な対応が出来たのは、避難所を運営する地域の方々が、日頃から訓練を積み重ねてきた成果です。日吉南小学校で避難所を開設したお二人のお話です。</p>
8面		<ul style="list-style-type: none"> ・小島委員長・斎藤事務局長(談) 震災後日吉駅周辺は停電していました。日吉小学校には多い時で150人以上が避難しました。停電や電車の情報が入らない、携帯が通じない等で、不安を感じていました。運営委員みんなで、パンの缶詰や水の配布、町内の見回り、避難者名簿も作りました。小学校などの協力もあり少ない人数ながら日頃の防災訓練を行動に移すことができました。今回の教訓を生かして行きたいと思っています。反省会を実施しました。
9	栄区	<p>正確な情報を入手しよう！</p> <p>3)発生から数十分 自宅の倒壊、火事は免れた……。ひとまず安心？ ポイント：隣近所と声を掛け合って救助などの協力を</p> <p>4)発生から数時間 余震が心配……。とにかく避難場所へ。 ポイント：自宅倒壊の危険がない場合、特に避難の必要はありません。</p> <p>5)発生から数日 大きな被害は避けられた後は救援を待つ……。 ポイント：隣近所と協力して自分達で出来る事は自分達です。</p> <p>●正しい情報を入手する</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆TVラジオの情報 まず正確な情報を(電池の準備を忘れずに) ◆携帯電話 掛かりにくくなる伝言板の活用。ディスプレイ代わり？ ◆緊急地震速報 室内：安全な場所に。室外：ブロック塀、看板、ガラス等を付けて。 <p>●避難先の再確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆自宅：(避難が必要なときは、まず一時避難所へ) ※：家を出る時は必ずブレーカーを落とし、ガス元栓を閉め戸締まりして。 ◆一時避難所(大地震発生後近所の公園や空き地に避難します。いったん避難して、周囲の様子を確認や地域防災拠点への避難をする全地域住民が集合する場所です。普段から家族で決めておきましょう。 ◆地域防災拠点(地域防災拠点は、家屋の倒壊などで自宅に戻れないとき避難生活を行う避難場所で区内の小中学校20ヶ所が指定されています。 <p>※：状況に合わせた他の避難場所 ・地域医療救護拠点 ・特別避難場所等 別表 ・広域避難所</p>
5月号 一面		<p>＜緊急震災特集＞ その時に備えて 今回東北地方を大地震が襲いました。地震と津波は一瞬にして後の生活に大きな爪痕を残しました。万全を期することは難しいが大地震が来た時に私たちは落ち着いて行動することが大切です。皆さん一人ひとり今回の震災で感じたことを考えてみてください。 今わたしたちに出来る事は？</p> <p>●家庭で</p> <p>1)節電に取り組む</p> <p>①不要な照明を消す。②使用しない電気器具はコンセントから抜く。 ③テレビの照度や音量を下げる。④冷蔵庫の詰めすぎに注意。</p> <p>2)食料や飲料水の備え 発災後は入手困難。日頃から3日分の食料飲料を。</p> <p>●地域で</p> <p>1)防災訓練への参加 防災拠点では防災訓練を定期的に開催しています。積極的に参加して拠点運営や防災資機材の使用方法を確認しましょう。</p> <p>2)地域の結束 地域には、高齢者や障害者、乳幼児など避難時に援助が必要な人がいます。。地域での交流を活発にし結束を強め、お互い支え合っていく関係を築きましょう。 栄区長 尾仲富士夫 挨拶”共に協力し誰もが暮らしやすい町を目指して”</p>
7,8頁↑段		<p>＜緊急震災特集＞その時に備えて”地震発生！ あなたはどうする？</p> <p>1)発生から数秒 突然の大地震そのときあなたは…逃げる？ 火を消す？ ポイント：まずは自分と家族の身を守る。</p> <p>2)発生から数分 最初の強い揺れはおさまった……。これで助かった？ ポイント：まずは自分と家族の身を守る 被害を最小限に抑えそして？</p>

横浜市各区広報の「東日本大地震」の取り扱いについて			
NO.	区名	記事	
10	瀬谷区 5月号 一面	<p style="text-align: center;">トップ記事</p> <p>東日本大震災の発生に当たって 区長コメント ■大地震に備えてもう一度点検を！ 横浜市内で想定されている大地震 (南関東地震・横浜市直下型地震・東海地震など)が起こったら</p> <p><input type="checkbox"/>まず身の安全 <input type="checkbox"/>揺れがおさまったら火の始末 <input type="checkbox"/>外へ避難</p> <p>●避難するとき瀬谷区で特に注意しなければならないのは、火災による二次災害です。</p> <p><input type="checkbox"/>避難する時は、必ずブレーカーのスイッチを切りましょう。 電気が復旧したときにショートして火事になるのを、防ぐためです。 このことがその後の二次災害の大きさに影響します。ブレーカーの場所を事前に確認しておきましょう。</p> <p>●それでも火災が起り、延焼が拡大してきたら「広域避難所」へ避難しましょう。</p> <p><input type="checkbox"/>広域避難所とは 広域避難場所はこちら 米軍上瀬谷通信隊一帯、下瀬谷入り口耕地へ避難して下さい。避難場所への安全な経路を確認しいざという時には声を掛け合って避難しましょう。</p>	<p>●ほかに、状況によって避難場所が変わります。 自宅が被害を受けて日常生活をする住居を失ったとき仮に生活する場所です。</p> <p><input type="checkbox"/>地域医療救護拠点： 負傷者が多数発生したときに住民が身近な場所で医療救護を受けられる場所です。</p> <p>■広域避難所はこちら(地図省略)</p> <p>①中屋敷地区センター ②瀬谷センター ③瀬谷公会堂 ④瀬谷スポーツセンター ⑤阿久和田地区センター</p> <p style="text-align: center;">※：東北地方太平洋沖地震募金へのご協力ありがとうございます。</p>
11	都筑区 4月号 一面	<p>緊急特集「いま」出来る備えを十分に！地震対策 東北地方太平洋沖地震の発生にあたって 都筑区災害対策本部長 吉田哲夫</p> <p><今一度、地震発生時の避難方法を確認しよう></p> <p>■地震発生！避難時のポイント</p> <ol style="list-style-type: none"> 揺れがおさまるまでは、身の安全を確保 頭を低くして机の下などに入ったりカバン・バックなどで頭を保護する。 揺れがおさまったら、避難の前に火の始末 ストブの火を消す。ガスの元栓を閉める。電気ブレーカーを切る。 落下物などの危険を避ける ・長袖、長ズボン、底の厚い靴で避難。 ・外に出るときは看板、ガラス、照明など落下物に十分注意を！ ・傾いた建物、石塀、ブロック塀、自動販売機などに近寄らない。 ・切れた電線には絶対に触らない。 <p>■地震発生！ひとまず近くの広い場所へ避難 家屋が倒壊・消失し、自宅に戻れない場合は、地域防災拠点(避難所)に避難して下さい。</p> <p>※：都筑区防災拠点一覧表(9箇所表示－省略)</p> <p><地震に備えておくものをチェックしよう> 非常持ち出し袋を用意。三日分の食料を各自で準備。</p> <p>■非常持ち出し袋の一例</p> <p><input type="checkbox"/>水缶 <input type="checkbox"/>レトルト食品 <input type="checkbox"/>衣類 <input type="checkbox"/>医薬品(常備薬、風邪薬など) <input type="checkbox"/>予備の眼鏡 <input type="checkbox"/>携帯ラジオ <input type="checkbox"/>懐中電灯 <input type="checkbox"/>乾電池 <input type="checkbox"/>ナイフ <input type="checkbox"/>ライター <input type="checkbox"/>軍手 <input type="checkbox"/>レインコート <input type="checkbox"/>ロープ <input type="checkbox"/>ビニール傘 <input type="checkbox"/>現金</p>	<p>■家の中に備えて置くもの一例</p> <p><input type="checkbox"/>水(水缶、ペットボトルなど、1人一日3リットル×3日分必要) <input type="checkbox"/>給水用ポリタンク <input type="checkbox"/>食料(缶詰、インスタント食品、チョコレートなど) <input type="checkbox"/>携帯コン ロ・ガスボンベ <input type="checkbox"/>ローソク、マッチ <input type="checkbox"/>乾電池 <input type="checkbox"/>紙オムツ・粉ミルク <input type="checkbox"/>トイレパック (水道が止まったとき必要です。1人一日5個程度用意を)</p> <p><徹底した節電にご協力を>(お問い合わせは、東京電力カスタマーセンター)</p> <p>■停電に備えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停電時は、断水・減水になる可能性があります。飲み水のくみ置き等行うと と共に使用も出来るだけ控えて下さい。 ・火災防止の為自宅を離れるときはドライヤーなどの電気機器のプラグを 抜いてから外出して下さい。 ・携帯電話の充電を忘れずに！ <p>■すぐ出来る節電事例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不要な照明、電気機器の使用を控える。 ・使わないときは、ガス給湯器の電源を切る。 ・エアコンはこまめに切る。 ・電気ポット、炊飯器の保温を止める。 ・TV、オーディオ等の家電製品のプラグを抜く。 <p>※電力供給、計画停電の状況は変わることがあります。 ※テレビ、ラジオ、インターネットなどでこまめに情報を収集して下さい。</p>

横浜市各区広報の「東日本大地震」の取り扱いについて		
NO.	区名	記事
12	鶴見区	<p>～区民の皆様へ～ 鶴見区災害対策本部コメント</p> <p>・地震 いざというときのためにもう1度確認しましょう！ 地震発生時、大切な事は、「生命を守る事」ですが、とっさの時に何をすれば良いのか分からないと言うことが考えられます。 慌てず冷静に行動出来るよう、日頃から準備、訓練しておきましょう</p> <p><地震時の3原則></p> <p>1) その場にあった身の安全 まずは落ちついて、その場にあった身の安全を図ることが大切です。慌てて外に飛び出さない、落下物や転倒物などから身を守る、その場で一番丈夫な物に身を寄せると安全を確保しましょう。出口の確保も忘れずに。</p> <p>2) すばやく火の始末 地震発生時に火を使っていたら、すぐに火を消しましょう。ただし大きな揺れがおさまってから火を消しましょう。避難するときはガスの元栓を閉めブレーカーも落とします。</p> <p>3) 隣近所の助け合い 隣近所に声を掛け合って協力し、被害を最小限に食い止めるようにしましょう。又近所に一人暮らしの高齢者や障害者などいないか日頃から情報交換し、安否を確保しましょう。</p>
5月号 一面		<p>トップ記事</p> <p><地震発生時の避難方法></p> <p>■まず近くの安全な避難場所へ→一時(いつき)避難場所 一時(いつき)避難所は、地域防災拠点など避難する前の中継点で、いったん避難して災害の状況を確認したり、広域避難場所などへ避難する為に集まる場所です。日頃から自宅近くの広くて安全な場所(学校や公園、空き地など)と、そこに避難する経路について家族で確認しておきましょう。</p> <p>■自宅が倒壊した場合には→地域防災拠点(31小中学校) 地域防災拠点は、救援・救護用資材や必要最小限の水と食料があり、一定期間避難生活を送るための場所です。家屋が倒壊して、自宅に戻る事が出来ない場合には、指定された防災拠点到避難しましょう。</p> <p>■大規模な火災が発生したら→広域避難場所(総持寺他) 広域避難所は、一定の広さが確保された空間で、火災による熱や煙から身を守る為の場所です。大規模な火災により、自宅や地域防災拠点が危険になった場合には、広域避難場所に避難しましょう。 ※任意避難場所 7ヶ所</p> <p>徹底したした節電に努めましょう。 発電設備が大きな被害を受けたことにより、電気の供給量が不足しています。家庭で消費される電力使用の70%がエアコン、照明器具、冷蔵庫、テレビによるものです。一人ひとりの心掛けが大切です。一節電に努めましょう。</p>
13	戸塚区	<p>地震への備え もう一度 東日本大震災により、各地で甚大な被害が出ております。 いざというときに助け合えるよう、近所同士のつながりを大切に、1人1人も自分の身を守るため、十分に備えておきましょう。</p> <p><戸塚区防災・区民マップで確認を> 戸塚区防災・区民マップには、家庭での備え、地震発生時の行動避難場所(地域防災拠点)の位置やリストなど、防災に関する様々な情報が、図で分かりやすく掲載されています。(戸塚区役所4階43番窓口他で配布中)</p> <p><防災区民マップ></p> <p>●家庭での備え 住居のチェックポイントや非常持出品リストを掲載。家族で防災会議をし、いざという時に慌てずに行動出来るよう話し合っておくことも大切です。</p> <p>●地震発生時の行動 地震発生時の、状況に応じてとるべき行動を掲載。避難するときは、近所に声を掛け合って車は使わず、走らずに歩いて避難しましょう。</p> <p>●マップ 避難場所や避難ルートの確認に。家族やご近所の皆さんで実際に歩いてみましょう。</p> <p>●防災関係機関・地域防災拠点などのリスト それぞれの所在地や連絡先などを一覽で掲載。(詳細省略)</p>
5月号 一面		<p><震災に関する情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ●戸塚区犯罪防犯情報Eメール 登録方法・ホームページ紹介など 登録すると区役所から、犯罪や防犯情報の他、震災関連の生活情報が届きます。 ●横浜市防災Eメール ホームページ紹介 登録すると、横浜市から地震震度、津波情報や緊急のお知らせ等が届きます。 ●ツイッター(横浜市からの情報発信)震災関連のタイムリーな情報が届きます。 ●防災情報掲示板:区内の地区センター、消防署、出張所などに設置。 ●横浜市や戸塚区のホームページでも各種震災関連情報を提供しています。 <p>※:「防災」「防犯」「エコロジー」各インフォメーションを、エフエム戸塚で放送中! ※:「緊急連絡カード」 サンプルあり</p>

NO.	区名	トップ記事	記事
14	<p>中区</p> <p>5月号 一面</p>	<p>特集 東日本大震災から学ぶ <今改めて考えてみよう防災のこと> 区役所から区民の皆様へ いざというときに地域の大切さを、改めて感じた方が多いと思います。これからも自治会・町内会等地域のつながりを深めていきましょう。</p> <p>・私たちが、今、できること</p> <p>1)節電を肝に銘じる ①冷蔵庫16.1%②エアコン25.2%③照明16.1%④テレビ9.9%⑤トイレ3.9%</p> <p>2)今一度、我が家の点検 転倒防止危惧で家具を固定したり、家具の配置を見直しましょう。</p> <p>3)風評や買い急ぎに注意</p> <p>・レポート 被災地救援に中区職員も応援派遣 横浜市では、延べ1,000人を超える職員が地震発生直後から被災地に入り、消火、給水、し尿処理、保険、避難所関係の応援活動をしています。中区役所職員が派遣されています。(二人に派遣者の感想-略)</p> <p>・皆さんの温かい気持ちが義援金に 2ページに</p> <p><大地震が起きたときどう行動すればよいか> (皆さんはどんな行動をしましたか?)</p> <p>●慌てて外に飛び出した ・教訓 その場にあった身の安全 家の中にいるとき 屋外にいるとき</p>	<p>●何時何処へ避難すればいいか分からなかった ・教訓 状況に応じた避難を ひとまず近くの広い場所へ 自宅が倒壊・消失していないときは「地域防災拠点」(避難所)へ 怪我をしたときは「地域医療救援拠点」へ</p> <p>●携帯が繋がらず、家族と連絡が取れなかった ・教訓「災害用伝言サービス」で安否確認 NTT災害用伝言ダイヤル171(伝言を録音するとき、伝言を聞くとき) NTTドコモ災害用伝言版</p> <p>●状況が分からず不安だった ・横浜市や中区のホームページで情報入手 ※横浜市は事故発生直後からホームページ・トップ画面で緊急情報に始まり計画停電、放射能等地震関連の市域の最新情報を伝えてきた。 現在はツイッターでも発信している。</p> <p>●勤務先から停電の町を何時間も歩いて帰宅。怖かった! ・教訓 オフィスにとどまり情報収集。帰宅グッズも用意しておこう。 むやみに移動を開始しない。一時宿泊場所 オフィスでも帰宅困難者対策を。帰宅グッズの用意</p> <p>※ 避難所一覧 地域防災拠点 広域避難場所 ※ 避難所一覧 地域防災拠点 広域避難場所 ※ 更に防災知識を身につけるのは 中区防災カード配布中</p>
15	<p>西区(1)</p> <p>5月号 一面</p>	<p>特集 東日本大震災～その日の西区 そしてこれから・・・～</p> <p>1)地震発生 3/11 午後2時46分、三陸沖を震源とする震度7の大きな地震が起こり西区震度5強の大きな揺れに見舞われました。地震が起こってすぐ鉄道は止まり、交通機能はマヒした。横浜駅では帰路につく人が続々と集まり、午後8時頃には最大で6万人の帰宅困難者が発生しました。市では、パシフィコ横浜みなとみらいホール、西公会堂や一部地域防災拠点などを解放して毛布と飲料水を提供するなどの対策を講じ、約1万人の帰宅困難者を受け入れました。</p> <p>※:余震が続く中では、ムリして歩くと危険です、余震や交通機関の状況など今後の見通しが確認出来るまで、なるべく安全な場所にとどまっています。</p> <p>2)被害状況 西区内でボウリング場天井落下など建物の損壊や歩道の損傷など約80件の被害報告がありました。</p> <p>・横浜駅西口ダイエー前歩道(震災後→応急復旧後の写真) ・横浜駅西口ダイエー前歩道マリノスタウン前歩道(震災後→応急復旧後の写真)</p> <p><日頃のつながりはいざという時にたよりになります！></p> <p>・地域ではこんな事がありました。 地震の後一人暮らしだったり、共働きでこどもの元へすぐ帰れなかったり不安な気持ちで過ごした人達もいましたが近隣の人たちが、声を掛けて回るなどの助け合いの輪が多くの人達の安心につながりました。(高齢の一人暮らしで心細かったけど近所の方が様子を見に来てくれてホットしました。) (職場からすぐに帰宅できなかったので、知り合いの方に夜まで子どもを預かってもらいました。)</p>	<p>◆～区長挨拶～</p> <p>◆:被災地に対する支援を御願います。 義援金1,114,670円(4/7現在)、支援用として毛布844枚を被災地に贈りました。</p> <p>※:余震が続いて居ます。家具の転倒防止、避難時の備蓄、避難所運営の確認を！</p> <p>2頁 <多くの職員が被災地に支援に行っています> 横浜市では、被災地に消防、上下水道、し尿処理など様々な職員が支援に行っています。</p> <p>・西区職員の保健士のレポートを紹介します。 場所::陸前高田市 日時:3/24(木)～28(月) 状況:未曾有の災害でほぼ壊滅的な被害を受けた陸前高田市では多くの人が津波に遭い、市職員の半分以上が死亡や行方不明、保健士も8人中6人が死亡という悲惨な状況。職員のOBが応援に入っても被害状況の把握や支援の調整と言った市町村機能が殆ど不可能な状況。このため横浜市の保健師は、交代で、被災地に入り、必要な避難所住民の健康管理・在宅住民も含めた医療福祉保険サービスの調整を行った。避難所の把握・避難住民の健康相談サービスが止まった在宅援護者や障害者の支援、医療が必要な人に対し日赤などの各医療チームと連携医療確保を実施。</p> <p>・避難所では大きな被害に遭った避難者が、ライフラインが止まる等制約の多い中お互いを配慮し合って過ごしており、元々の地域のつながりを基盤に仕組みが出来ていた。</p> <p>横浜に帰って考えると<地域と行政の協力、市民同士の協力が重要！> ・被災直後の電話が使えず混乱するとき、拠点を中心に地域の情報収集・提供をする仕組みが大事！・福祉サービスが再開するまで、地域の力も借り避難所や在宅の要援護者を支えなくては、災害後、役所を早く回復させる事も重要。 これからも横浜市は、被災地の支援を続けます。</p>

NO.	区名	トップ記事	記事
	西区(2)	<p align="center">トップ記事</p> <p align="center">《災害の後の「こころ」と「からだ」》</p> <p align="center">災害にあたり、家で災害のテレビの報道を見ているだけでも ストレスを感じ、変化が出てくる事があります。</p> <p>「大人の場合」 ● 同じ様な事が又起こるのでは・・・と怖くてたまらない ● 自分がとても無力なものを感じる。 ● 疲れが取れない。吐き気、胃腸症状発汗。 ● 集中出来ない。</p> <p>「子どもの場合」 ● 大人のそばを離れない ● 過食・拒食 ● かみつく、蹴る、自分の体をたたく ● 持病の悪化(アトピー、ぜん息など)</p> <p align="center">危険な状態に対する正常な反応です。 時間が立つと徐々に良くなります。</p> <p align="center">↓</p> <p>● 家族や友人と率直に話し「事件、事故」も同じです ● 小さなお子さんはスキンシップ(抱きしめてあげる等)をしてあげましょう。 ● お子さんの気持ちを受け止めてあげましょう。</p> <p>● 睡眠と休息を充分にとりましょう。 ● 気分転換、軽い運動をしましょう。</p>	<p>く心と体の苦痛が強すぎる、あるいは長すぎると感じたときや、お酒の量が増えて、飲まずにいられないと感じられるようになったときは御相談ください> 問合せ:健康づくり係 渉外担当 Tel.: 320-8439・8450</p> <p>くお子様のこころや体の変化や、保護者の人がお子様にどのように接したら良いかわからないときは、ぜひお問い合わせください> 問合せ:子ども家庭係 Tel.: 320-8470・FAX: 290-3422</p> <p align="center">この様な場合は早めに相談しましょう</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 自分の気持ちを素直に話せる相手がいない時 ● 眠れない、などずっと緊張が続いて居るとき ● 何もかもがいやになった時、お酒など飲まずにいられない時 <p>※:心の電話相談(横浜市こころの健康相談センター) Tel:476-5557 (月～金 午後5時～午後9時30分)(土日祝 午前8時45分～午後9時30分)</p>
16	保土ヶ谷区 5月号 一面	<p>ミニ特集 やってくる地震に備えて</p> <p>3月11日の東日本大震災では甚大な被害が発生しました。区内でも、建物や道路の被害、交通機関のストップによって帰宅困難者が発生するなど、多くの生活に影響が出ました。災害時には混乱が起きやすいため、まずは落ちついて「自分の安全を確保すること」、「正確な情報を把握すること」が重要です。そのためには、「むやみに移動しないこと」、「複数の情報を整理すること」も大切です。</p> <p>● 日頃の準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常持ち出し品の準備 ・避難場所、避難ルートの確認 ・家族の安否確認方法 ・マンションや自治会町内会での備蓄 <p>● 「自助」と「共助」 自治会町内会の災害に備えた取り組みをP7で紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時には「自助」と「共助」が必要だと云われています。 ・「自助」とは自分の安全を自分で確保すること、 ・「共助」は近隣の人同士で助け合う事を意味します。 ・1人1人が災害時をイメージし準備をして置くことは重要です。 ・すべて一人でこなすことは出来ません。 ・家庭・職場や近所の皆さんで話し合い、「自分でやるべき事」、みんなと力を合わせて行うことを確認しておきましょう。 <p>● 「減災行動」のススメ 配布中！</p> <p>災害による被害を出来るだけ小さくするために、何をしたらいいのか？具体的な対策が載っているパンフレットです。ご希望の方は、区役所庶務係まで</p>	<p>特集 みんなでつくるみんなのまち(6～7頁) ～自治会町内会活動に参加しましょう</p> <p>■ 自治会町内会 とは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会町内会は、地域の皆さんでつくる自治組織です。地域の問題解決や、住民の皆さんの結びつきを深めるなど、安全・安心ですみやすいまちづくりを目指して活動しています。 ・自治会長内会の活動に皆さんが積極的に参加することで暮らしやすい町づくりを、町内会活動に参加しましょう。 <p>■ 自治会町内会に加入するには？</p> <p>まず近所の方に御相談下さい。相談先が分からない場合は、区役所まで</p> <p>■ 自治会長内会活動紹介</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 支え合うまち(千丸台団地自治会) ② 快適な町(権太坂境木自治会) ③ 楽しい(今井町自治会) ④ 安全安心な町(鎌谷町自治会) <p>※:そのほかにも(回覧板で情報伝達、住民拠点となる自治会町内会館管理。)</p> <p>■ いざというときに備えて ～日頃から顔の見える関係作りが大切です</p> <ol style="list-style-type: none"> ⑤ 西谷第八町会(震災時に安否確認出来るステッカーを作成、全世帯に配布) ⑥ 桜ヶ丘自治会(防災マニュアルを作成しました。)

NO.	区名	トップ記事	記事
17	緑区 5月号 一面	<p>緑区長からのメッセージ</p> <p>特集1－職員 災害支援サポート 横浜市では被災地への人的支援として、緊急消防隊をはじめ物資の運搬、支援物資の荷さばき作業、し尿収集、給水支援、健康相談活動、医療救護などの任務で900人以上(4/1現在)を派遣しています。緑区からも多数の職員が現地に出向き活動しました。その貴重な体験と被災地の状況などの一部をレポートします</p> <p>◆災害に強い「人」のつながり (派遣者：高齢・障害支援課峰尾剛史) (派遣先：仙台市宮城の中学校 ・主な活動：避難所の応援活動) 避難所では地震の強いショックやその後の避難所生活から気力が減退したり、自尊心低下などうつ病になりかけている人も多く見かけられました。避難生活長期化で、要援護者が残される実態、行政が何処までフォローするか？(単身高齢者への配食など)自治会中心のボランティアなど、CPUの時代でも地域の絆の力を痛感。</p> <p>◆心にしみた感謝の言葉 (水道局 西海保彦)・福島いわき水道局：応急給水活動 ・横浜での給水訓練が役に立った。今後も知識と技術を身につける事が大切と痛感。</p> <p>◆長期的援助で被災地を支えよう (福祉保健課 山本弘庫) (岩手県陸前高田大船渡保健所 被災者への保健活動)車両通行は可能だったが電気・ガス・水道のライフラインは復旧しておらず、ガソリンも給油制限があり、緊急支援車輛のみが給油可能。長期間にわたる避難所生活のストレス、疲労蓄積、PTSD、インフルエンザ等の感染症、義歯の不具合など新たな課題発生。健康の課題は発生直後から変</p>	<p>◆冷静な判断で行動を (緑消防署十日市場出張所 西川 厚) (宮城県仙台市宮城野区：3/14～人命検索、危険排除活動) ・海岸線から全員で一列になり瓦礫を避けながら救える命を探しました。共に活動したみやぎのくの消防隊員も自らが被災者で避難誘導中に命を落とした仲間が大勢いるとのことでした。現地では譲り合いや助け合いが至る所で自然に行われ、非常時でも冷静に行動出来る日本人のすばらしさを目のあたりにしました。</p> <p>7頁</p> <p>■地震に備えよう 大地震は何時起こるか分かりません。日頃から家族で防災について話し合い万が一に備えましょう。 ・地震発生時の連絡方法を決めておきましょう ・避難場所と避難経路の確認をしましょう ・家の内外、家具の危険箇所をチェックしよう ・非常用持ち出し品を準備しよう</p> <p>※：そのほか、東日本大震災に関する問い合わせ窓口一覧や横浜市「くらし・経済」震災対策本部の設置については、市版1面をご覧ください。</p>
18	南区 5月号 一面	<p>震災特集号 南区派遣職員が見た被災地の現実 (今回の大震災を受け南区役所から職員が現地へと派遣されています。) (そこですでに帰還した職員に現地の状況や生活について話を聞きました。)</p> <p>●普段から「顔の見える関係」を作っておくこと(仙台市派遣佐藤孝之係長) ・任務：地域防災拠点となった小学校で物資の仕分け、要援護者のトイレ介護、夜間の見回り。少なかった地域。都市ガスと交通機関を除けばほぼ復旧。 ・避難所は：建物被災した市営住宅の住民200名が避難。 ・活躍していた人：町内会長、学校教員、日頃の信頼関係が無いとダメと痛感。 ・感心したこと：「仙台貸湯作戦」一般の家庭が被災者に自宅の風呂を提供するボランティアや、被災者の方達が不平不満も言わず一致団結して助け合う姿が印象的でした。 ・そこで感じたこと：地域や行政も含め普段から「顔の見える関係」を作っておくことの大切さ。そして自分達の身を安全は勿論、要援護者を把握し普段から地域で見守ることや、実践的な訓練をしておくことの重要性も派遣で学びました。</p>	<p>●もしも今回の様な災害が横浜で起きたら(陸前高田派遣千田保健師)</p> <p>・派遣先：津波の被害が大きく壊滅的な被害を受けた陸前高田市 ・被害状況：市職員の3分の1が津波で流され死亡、行方不明の中、他都市からの派遣職員が交代で応援に駆けつけ、救済や復旧活動をがんばっていました。 ・保健士として：11ヶ所の避難所の巡回や健康相談、要援護者の聞き込み ・町の様子：大きな被害の沿岸部は道路も津波で分断され瓦礫の山で悲惨な状態。 ・避難所：当初より避難民は減っているものの長引く避難所生活で体調を崩す人や精神的ストレスから、被災者間のトラブルもすくなく見受けられた。 ・住民：幸いこの地域では普段から近所付き合いや住民の結束が強いお陰で、住民基本台帳が消失しても、住民同士が安否確認し合い要援護者や行方不明者を把握していました。 ・被災者同士：体調を聞きあったり、声を掛け合ったり、する共助の姿が当たり前のようにあった。 ・もし今回の様なことが横浜で起きたら、行方不明者や孤立する人が数多く出るのではと不安に感じています。 ・そうならないためにも、ご近所同士、普段から交流や付き合いを持ち、お互いを気に掛け合う関係づくりが必要だと実感しました。</p> <p>南区の皆様へ 区長 青井恒夫氏コメント</p>